

社団法人 日本循環器学会  
2008年度第4回理事会議事録

日 時 2009年(平成21年)3月19日(木) 14時30分～17時00分

場 所 リーガロイヤルホテル大阪 2F (山楽2の間)

〒530-0005 大阪市北区中之島 5-3-68

理事現在数：20名

出席：和泉 徹、小川 聡、小川久雄、北 徹、児玉逸雄、坂田隆造、島田和幸、島本和明、  
下川宏明、高本眞一、鄭 忠和、友池仁暢、永井良三、堀 正二、堀江 稔、松崎益徳、  
水野杏一、室原豊明、山岸正和

欠席：土居義典

その他出席者

名誉会員：18名

監事：青沼和隆、今泉 勉

幹事：大津欣也、川名正敏、寺崎文生、西垣和彦、野原隆司、藤田正俊、堀内久徳、前村浩二、  
松森 昭、南野哲男、安武正弘

オブザーバー：佐地 勉(日本小児循環器学会)、村松孝夫(財団法人日本心臓財団)

事務局：加藤安雄(事務局長)、清水光則(事務局長代理)

議事

第1号議案 2008年度事業報告

第2号議案 新入会員の承認

第3号議案 委員会報告

- 1) 医療安全・医療倫理委員会
- 2) 国内交流委員会
- 3) コメディカル委員会
- 4) 健保対策委員会
- 5) 心臓移植委員会
- 6) 教育研修委員会
- 7) 用語委員会
- 8) WCC 招致委員会
- 9) 循環器救急医療委員会
- 10) 禁煙推進委員会
- 11) 編集委員会
- 12) 専門医制度委員会
- 13) 情報広報委員会
- 14) 学術集会プログラム委員会
- 15) 学術集会運営委員会
- 16) 学術委員会
- 17) 国際交流委員会
- 18) 財務委員会
- 19) 総務委員会

#### 第4号議案 年次学術集会に関する件

- 1) 第73回年次学術集会報告
- 2) 第74回年次学術集会報告

#### 第5号議案 その他

- 1) 総会への上程事項について
  - 2007年度収支決算報告(追認)
  - 2008年度収支予算修正
  - 2009年度事業計画及び収支予算の承認
  - 2009年度就任新評議員・新正会員代表の選任

#### ・議事の経過及び結果

- 1) 定刻になり、小川理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第25条の定数を満たし、理事会が成立していると報告があった。
- 3) 議長が、議事録署名人として第73回堀会長と第74回北会長を指名し、了承された。
- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の7名および竹下彰名誉会員とプール・ウィルソン国際名誉会員の逝去に対して黙祷が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。

#### 第1号議案 2008年度事業報告

藤田総務幹事から、2008年度事業について資料に沿って説明があり、承認された。

#### 第2号議案 新入会員の承認

藤田総務幹事から、2008年12月1日から2009年1月31日までの新入会員154名が資料に基づいて説明され、承認された。

また新入会の傾向として、2年前から入会数はほぼ横ばいであり、年度ベースでは約1,000人の入会があると報告された。

#### 第3号議案 委員会報告

##### 1) 医療安全・医療倫理委員会

永井委員長から以下の点について報告があった。

第73回学術集会時 第8回医療安全・医療倫理に関する講演会について、「医療安全調査委員会設置法案(仮称)大綱案を考える」をテーマに識者を招いて開催する。

2009年1月、千葉北警察署より「心臓カテーテル検査中に発生した医療事故」についての捜査関係事項照会書を受信し、問い合わせに回答可能な医師の推薦を行った。

以上について、承認された。

##### 2) 国内交流委員会

島本委員長から以下の通り報告があった。

業者立合いの有償化に関する検証作業については、2008年4月からの実施に対して一年間の猶予を認めていただいたが、現状について主な施設にアンケート調査を行い、結果を関連資料とともにホームページに公開した。ほとんどの施設で対応が進んでおり、現状では大きな問題はないと考えられる。

ICD-CRT 研修制度に関する協議会について、日循・日本心不全学会・日本不整脈学会・日本心臓血管外科学会・日本胸部外科学会から委員を推薦いただいた。今後第一回目の協議会を行い、会長の選出及び規則を作成する予定である。

以上について、承認された。

### 3) コメディカル委員会

水野委員長から以下の通り報告があった。

日本臨床工学技師会から、先方で在り方委員会の設置およびガイドライン作成を行うので協力していただきたいという要請があり、今後必要に応じて協力することとした。

コメディカル会員制度の設置については、専門医制度との関係もあり準会員として位置づけ、今後具体的な内容を検討していく。

年次学術集会のコメディカルセッションについて、現在は会長が企画運営を行っているが、将来においてはコメディカル委員会が担当してはどうかという意見があり、今後依頼があった段階で具体的に検討する。

以上について、承認された。

### 4) 健保対策委員会

和泉委員長から以下の通り報告があった。

平成20年度診療報酬の改定の結果について検証作業を継続しており、循環器領域では全体的売上げが数パーセント減、ただし収支バランスは崩れていないようである。

MDC 分類の見直しが行われており、循環器領域でも一部修正の意見を出す。

平成22年度診療報酬改定について、厚労省から基本方針が提示されていない状態であるが、内保連・外保連を通して要望をまとめていく。

要望書については、高額薬剤のDPC 外出し、ケアリンクシステムについて要望を提出している。前者はMDC 見直しのなかで吸収すること、後者についてはデータが不足しており早急には難しい旨の回答を頂いている。

以上について、承認された。

### 5) 心臓移植委員会

島田委員長から以下の通り報告があった。

2009年2月28日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりである。最近心臓移植適応検討申請が増加しており現在までの申請は551例、昨年は最多の70例の新規適応検討を行った。また、2008年の移植実施数が誤っていたため修正し11例(最多実施数)となり、現在までの移植実施数は成人61名、小児3名の合計64例である。

第 73 回学術集会会期中に第 5 回心臓移植セミナーを開催する。今回は、ドナーファミリー、国内移植患者、ジャーナリスト、厚生労働省、心臓外科医から発表いただく予定で、委員会からは適応検討症例の予後調査結果を報告する。

第 73 回学術集会参加者に臓器提供意思表示カードとグリーンホッパージュを配布し、カード普及のための広報活動を行う。

以上について、承認された。

#### 6) 教育研修委員会

堀江委員長から以下の通り報告があった。

7 月 12 日(日)に東京で開催する「第 5 回循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナー」の企画について、中川義久ワーキンググループ長を中心に検討し概ねまとまった。

循環器研修ビジュアルシリーズの 2009 年度に製作する新タイトルを検討し、「糖尿病肢のフットケア(監修者案: 笹嶋唯博先生)」「冠循環の形態的、機能的評価法(監修者案: 赤阪隆史先生)」の 2 案に決定した。

以上について承認された

#### 7) 用語委員会

山岸委員長から以下のとおり報告があった。

用語集の改訂作業については、随時意見を募集し、検討・修正を行っている。

ICD-11 との整合性については、現在厚生省に渡辺重行用語副委員長および東大の興梠貴英先生が委員として出ている。今後も協力関係を継続していく。

以上について、承認された。

#### 8) WCC 招致委員会

松森委員長から以下の通り報告があった。

招致活動に重点をおいて活動するとし、「WCC 招致準備委員会」から「WCC 招致委員会」に名称変更された。

委員の任期並びに委員会は「日本招致が決定するまで」とすること等を記載した委員会内規が資料のとおり策定された。

WCC2012 年 2014 年の招致活動について

2008 年秋頃、1)参加予想数 25,000 人、30,000 人、2)会議場の他、京都市内の主要な施設を利用する、3)同時開催の場合は 1 日重複等も検討、この 3 点を包括した予算案を WHF に提出した。候補国は、シンガポール・ケープタウン・メキシコシティ・京都である。4 月に WHF 理事会が開催されるため早々に開催国を決定してもらうように働きかけを行う。また、WHF 関係者を招待し APCC2009 開催中の 5 月 21 日に WCC 招致委員会を開催する。2012 年に日本招致が決定した場合は、第 76 回学術集会と同時開催とし 6 月の京都開催とする。

WCC2010 年のプログラム委員会就任について

WCC2010 年は中国・北京で 6 月 16 日～19 日と開催日が決定した。WCC2008 以降、プログラム編成は WHF 側の委員と各国循環器学会が合同してプログラム編成することとなった。WCC2010 年プログラム

委員は、SPC Scientific Committee の委員が行い、松森昭委員長が委員に就任する。  
以上について、承認された。

#### 9) 循環器救急医療委員会

小川久雄委員長から以下の通り報告があった。

2008 年度に循環器救急医療の実態についてのアンケート調査を循環器研修施設を対象に 2 度行い、結果をプレスリリースし、第 73 回学術集会の日循ブースでも掲示する。

AED 検討委員会ではマウス・トゥ・マウスを省略した簡易型心肺蘇生法の普及させるためポスターを製作し、日循ブースで掲載する。またホームページの掲載も準備中である。

AED 検討委員会で各社の AED の診断精度を調査するため、大阪市消防局に AED 使用例のデータ提供を求める依頼状を送付した。

予算委員会より、JCS-ITC 運営小委員会の活動についての会計を検討するよう要請書が届き、検討した結果 BLS、ACLS 事業での年度収入が黒字である支部から一定割合の金額を供出していただき、プロバイダーカード台紙購入費用、参加者の保険料、マネキン買い替え準備金、赤字支部への補填などに使用する方向で合意したので、理事会の承認を得たい。供出金の割合については各支部の 2008 年度収支が出揃った段階で検討する。

BLS コースが本来の支部エリア外で支部長の承認がなく開催された例があったことをお詫びし、今後は本来のエリアの支部長に事前に運営について承認を得るよう周知徹底する。

以上について承認された。

#### 10) 禁煙推進委員会

室原委員長から以下のとおり報告があった。

第 73 回学術集会において、「第 7 回禁煙推進のための市民公開講座」を"楽しく禁煙！プロジェクト"というテーマで開催する。禁煙体操のご紹介や、タレントの桐島ノエルさんにご自身の禁煙体験等をお話しいただく。また「第 8 回禁煙推進セミナー」では"Smoking Ban"を取り上げ、厚生労働省たばこ対策専門官の森淳一郎先生を含む 4 名の先生方にご講演いただく。

禁煙に関連した 12 学会からなる「禁煙推進学術ネットワーク」からの依頼にもとづき、同ネットワークのホームページと、禁煙推進委員会ホームページとの相互リンクを設定していくことで合意した。

循環器研修施設向けの禁煙化状況アンケートを実施する。また前回平成 17 年に実施した、喫煙に対する意識調査アンケートを会員向けに実施する。前回と比較するためにほぼ同じアンケート内容とし、さらにこの 4 年間で新たに加わった治療方法などに関する設問を追加して行う。

循環器専門医の資格に「非喫煙者」であるという条項を加えることについて、呼吸器学会や内科学会の動向、また公共の場での禁煙が広がっている社会情勢も鑑み、理事会あるいは専門医制度委員会においてこの件を積極的にご検討いただきたい。

現在、JT からの寄付は受けないことが決定されているが、完全連結子会社である鳥居薬品からの寄付も、循環器学会としてはこれを受けないようにしてはどうか。禁煙推進委員会の意見として、この点を理事会に申し上げておきたい。

昨年禁煙市民講座で披露している「禁煙体操」が、市民向けの啓発に非常に有効と思われるの

で、この動画をぜひ禁煙推進委員会のホームページにアップして広く公開したい。これには予算措置も必要なので、財務委員会にもお諮りしながら今後検討していきたい。

以上について、承認された。

#### 11) 編集委員会

下川委員長より以下の通り報告があった。

2009年の投稿論文は、Clinical Investigationが67.5%、Experimental Investigationが15.2%であった。国別では、国内が56.3%、残り43.7%が海外からであり、国際化が進んでいる。2008年10月にCase Reportの受付けを中止したことにより、月平均62編と投稿数は減少したが、質の高い論文が増えている。

CJ本誌送本不要の申告に関して、3月18日現在、約4,000人の会員から送本不要申告を受けた。地方会抄録につき、オンラインシステムを導入し、2009年秋から紙媒体を廃止する。

小児循環器学会からの申し出を受け、CJ査読を小児循環器学会の専門医更新時の単位として認められる場合、査読者の先生方へ査読終了時に送信されるお礼のメールを証明書として提出いただくよう返答することとなった。

CJ査読を循環器専門医の更新時の単位として認められるよう、専門医制度委員会に再度申請することとなった。

二次使用につき、商業目的でWebsiteに転載する場合は、1万部を超える場合と同じとみなし、許諾料を50万円とすることが決定された。

以上について、承認された。

#### 12) 専門医制度委員会

土居委員長が欠席のため寺崎幹事から以下の通り報告があった。

専門医制評価・認定機構第2回社員総会での検討・報告内容は下記のとおりである。

##### 1) 厚生労働省からの助成金について

厚生労働省は専門医制評価・認定機構を第三者機関としての位置付けを強めていく方向で進めている。そのため資料にある予算とは別枠で厚生労働省から専門医制度支援推進事業として、認定制度の情報収集、評価認定作業の再検討、研修施設の整備と調査のため、3年間で4千万円が助成される。

##### 2) 専門医あり方委員会

専門医あり方委員会で、現在専門医像の再検討がなされている。

##### 3) 専門医制度評価委員会

基本領域学会の専門医制度の評価が終了し、認定証が発行された。次にSubspecialtyの学会(日本循環器学会が該当する)の評価が行われる予定である。

##### 4) 日本循環器学会からの負担金

資料のとおり2009年度の負担金として、¥1,294,700が機構から請求される予定である。

(内訳: 負担金¥1,074,700(専門医10,947名×¥100)と会費¥200,000)

2009年度指定及び指定更新研修・研修関連施設は資料の通りである。

厚生労働省から2009年2月23日に発表された行政処分者1名について、総務委員会で除名処分が

決定したため、循環器専門医資格も自動的に喪失となる。

日本専門医制評価・認定機構に指摘された本学会専門医制度の問題点について、認定更新の際の必修研修内容である、医療倫理・安全・法律に関する2単位の研修方法について検討がなされた。

研修方法について下記1・2は既に決定していたが、3について検討された結果、地方会でも医療倫理・安全・法律に関する研修ができるよう進めていくことになった。但し、各地方会で開催形式(セッションプログラム編成等)が異なるため、一般セッションに影響を与えないか等、詳細は各地方会と検討することになった。

<医療倫理・安全・法律に関する2単位の研修方法>

1. 日本循環器学会学術集会時の「医療安全・医療倫理に関する講習会」に参加して研修する。
2. インターネットでの視聴研修プログラムによって研修する。
3. 日本循環器学会地方会で、1の収録画像を視聴し研修する。

以上について承認された。

### 13) 情報広報委員会

坂田委員長から以下の点について報告があった。

第3回プレスセミナー座長について、榊原記念病院の高山守正先生に依頼し快諾を頂いた。

「JCS News Letter」の有効配信件数は増加傾向にあり、また会員にとって重要な情報を配信した際には開封率が高くなっており、会員に重要な情報をスピーディに届けるという目的は達していると思われる。

以上について承認された

### 14) 学術集会プログラム委員会

松崎委員長から以下の点について報告があった。

第74回学術集会(北徹会長)のプレナリーセッションが5題、シンポジウムが24題、ジョイントシンポジウム4題の座長と演題タイトル(日英)が確定した。

以上について、承認された。

### 15) 学術集会運営委員会

児玉委員長から以下の通り報告があった。

学術集会の参加費について、学術集会の規模拡大、企画の充実に対して展示収入や寄付金収入が減少傾向にあることを受け、¥15,000を¥20,000程度に値上げすることが提案された。

第74回以降の記念品贈呈は、第73回と同様に美甘レクチャー(座長・演者)、真下記念講演(演者)、特別講演(座長・演者)、海外招請講演者のみとする。

コメディカル委員会からの提案として、コメディカルセッションにおける一般演題オーラルセッション優秀賞新設の依頼があり、委員会として新設を承認する。募集要項等はコメディカル委員会に委譲する。

第73回学術集会終了後にプレナリーセッション、シンポジウムについて評議員250名と一般査読者(評議員を除く)743名の合計993名を行う。また、学術集会全体に対するアンケートとして、Eメールアドレス登録のある学会員から2,000名を無作為に抽出し実施する。

第 28 回日本医学会総会プレシンポジウムとして、第 74 回学術集会の「医療崩壊に対する～若手医師に魅力的な循環器臨床研修制度のあり方」を共催とする。

医学雑誌「心臓」の論文推薦について、日本心臓財団から各セッション座長に対する論文推薦協力の依頼があり、協力する。

「内田賞」については、受賞者への振込みが公益信託から振り込みがあった場合当会の主体性が損なわれる可能性が懸念されるため、手続きについて再審議することとなった。

以上のうち から について承認された。

#### 16) 学術委員会

堀委員長から以下の点について報告があった。

循環器疾患診療実態調査（主査：友池仁暢先生）について、DPC における ICD-10 の心筋梗塞項目である I21、I22 の登録状況を 2008 年調査から追加する。

但し、調査項目を今後増やしていくということではなくて、心筋梗塞の実態把握に役に立つ追加項目に限る。

循環器疾患診療実態調査が 3 年分まとまってきたのを受けて、論文としてわが国の特徴をまとめ、Circulation Journal に投稿する。

策定の 36 ガイドラインのあり方について、数を増やしていくというよりも、その浸透性や普及活動について以下の点が議論された。

- ・ C01 について、内科関連学会の C01 基本方針に従って、各学会がどのように対応するを足並みをそろえながら進める。
- ・ 国際化について、ガイドラインを英文化した場合、コスト面をどのように解消していくかを継続審議とした上で前向きに進める。
- ・ ダイジェスト版について、学術集會会期中の「ガイドラインに学ぶ」「ガイドライン解説」セッションの会場前で無料配布(4,000 部)する。
- ・ 一般へのガイドラインの普及について、Minds とタイアップしながら進める。
- ・ 外部評価について、1 ガイドラインに 4～5 名の外部評価委員を選定しているが、当面は現状のままとし、各先生方の意見を聞きながら改善を図っていく。

以上について、承認された。

#### 17) 国際交流委員会

鄭委員長から以下の通り報告があった。

国際留学生 YIA の賞金助成がアジアからの留学生に限定となっており、日本心臓財団に限定の解除について照会した結果、既に規定があるため解除は不可であった。

APSC 事務局及び APCC2009 活動について資料また配布の APCC2009 チラシのとおり活動を行なった。

また、APCC2009 の一般演題ポスターセッションは最終的に 430 演題の応募となった。

以上、承認された。

#### 18) 財務委員会

北委員長より下記の通り報告があった。



CJ.72 及び会告発行にかかる収支状況について、資料のとおりであること。

監査法人トーマツによる支部への会計監査について、2008 年度の実施支部及び 2009 年度の実施予定支部は資料の通りであること。

また、関東甲信越支部で年度を跨いでの会計処理が発覚し、監査法人トーマツより不相当との指導を受け、関東甲信越支部に対し、適正な会計処理を行える体制を整えるよう既に要請、指導を行ったこと。

賛助会員として東京プランニングセンターの新規入会が認められたこと。

2009 年 1 月末日現在の 2008 年度予算執行状況について、資料の通りであること。

なお、一般会計において、先の関東甲信越支部同様、年度を跨いでの会計処理が見受けられ、各委員会委員長に対し、活動に際しては、予算額はもちろん予算計上年度（会計年度）を考慮するよう、協力を求められた。また、監事による会計及び業務監査について、資料の監査報告書のとおりである。

資料にある Vol.71 掲載者の論文掲載料が、決算期末に於いて未納且つ支払意思が確認出来ない場合には、雑損として取り扱うことを決定したこと。

平成 20 年 12 月 1 日施行公益法人会計基準の改正点について、配付資料の通りであること。適用を 2011 年 4 月開始の事業年度を予定としており、それまでに、繰入金勘定をはじめ会計面の見直しをしていくこと。また、移行にあたっては、来年 2010 年 3 月開催の総会で新定款(案)が通過予定であり、支部においても、当基準に倣っていただく必要があることについて、理解と協力を求めた。

以上について、承認された。

#### 19) 総務委員会

小川聡委員長から以下の通り報告があった。

新公益法人制度への移行について、2013 年 11 月末までに何らかの対応を取る必要があり、公益社団法人を目指す方向で定款の変更など準備を進めている。現在の評議員の任期の終了にあわせて移行手続きを行う予定である。

CJ サプリメント（地方会抄録掲載号）について、電子ジャーナル化および印刷冊子体の廃止を検討しており、各支部にアンケートを行ったところ、おおむね賛成であったため、これらを進めることとした。

CJ 付録の「会告」について、新たに規定を作成した。

厚生労働省から 2009 年 2 月 23 日に発表された行政処分者 1 名について、事例が悪質であることを踏まえ、除名処分とすることで評議員会に上程する。

以上について、承認された。

#### 第 4 号議案 年次学術集会に関する件

##### 1) 第 73 回年次学術集会報告

第 73 回学術集会堀正二会長から以下のとおり報告があった。

一般演題が 3,905 題の過去最高の応募であり、2,344 題を採用(採択率 60%)した。英語発表が 50.7%、海外からは 69 名を招待した。

コメディカルセッションが年々充実し、シンポジウムの他、今回初めて一部オーラル発表を取り入

れた。次年度からはコメディカルの優秀演題に対する賞が新設される。

教育セッションにライブデモンストレーションを取り入れ、ビデオライブで、効率的なセッションにした。

ポスターセッションの新しい試みとして一部デジタルポスターを採用した。

会期は3連休となっており、1万6,000人以上の参加予定を見込んでいる。

経費節減のために一般演題座長の先生には記念品をカットした。

今回は布製コングレスバッグと参加者が利用しやすいようにタイムスケジュールを貼付したバインダーを準備した。

## 2) 第74回年次学術集会報告

第74回学術集会北徹会長から以下のとおり報告があった。

会期は2010年3月5日(金)～7日(日)3日間、国立京都国際会館をメイン会場に開催を予定している。(ポスター紹介)

「知の集約による真理の探求 基礎と臨床の融合」をメインテーマに掲げた。

美甘レクチャーはShaun Coughlin先生に、真下記念講演はiPS細胞の樹立者である山中伸弥先生を予定している。特別講演は、14名の先生方に内諾済みである。

## 第5号議案 その他

### 1) 総会への上程事項について

議長から、第73回総会に上程する議案について資料の通り説明があり、承認された。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人、これに署名押印する。

2009年3月19日

社団法人 日本循環器学会 2008年度第4回理事会

(署名)

(捺印)

議長 小川 聡

議事録署名人 堀 正 二

同 北 徹

(以下余白)